

京交山岳部報

例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2196回★★ 三峰山と古光山	12月6日(日) 7:00 竹田駅西口集合	井戸 澄夫 (内 810) (外 822-9181)	竹田-(R24)-桜井-(R165) -榛原-(R369)-神末-不 動滝…三峰山…不動滝-古 光山-帰路
担当者の都合により、日程を変更しました。			
第2197回★ 愛宕山と柚子風呂	12月6日(日) 10:00 清滝集合	吉田 武 (内 654) (外 311-0998)	清滝-水尾岐れ-愛宕山- 水尾岐れ-水尾-(柚子風 呂)-JR保津峡駅
参加希望者は、担当者までご連絡下さい。			
第2198回★ 納山祭 比良げんき村	12月19日(土) ~20日(日) 19日 12:00 壬生厚生会館前集合	吉田 武 (654) (外 311-0998) 馬淵拓巳 (548) (外 822-9118) 田村正弘 (812) (外 822-9176) 岡本義弘 (864)	
参加希望者は、12月11日までに、担当者にご連絡下さい。 個人装備は、シュラフ、防寒具、食器等です。 部員のみなさま、ふるってご参加下さい。			
第2199回★ 初登山 梅ノ尾 峰山 (537.6m)	平成11年1月10日(日) 9:00 市バス高雄バス停集合	大倉寛治郎 (内 4622) (外 642-4332) 井戸 澄夫 (内 810) (外 822-9181)	
参加希望者は、平成11年1月8日までに担当者にご連絡下さい。 当日は、各自モチを持参して下さい。山頂でぜんざいをします。 参加料は500円です。			

第2200回★ 野沢温泉スキー	平成11年1月13日(水) ~16日(土) 13日 23:00 京都発	大倉寛治郎 (内 4622) (外 642-4332)	
<p>参加希望者は、担当者までご連絡下さい。</p> <p>定員15名になりしだいしめ切ります。</p> <p>今回は、ペンション「メジューブ」に宿泊予定です。(TEL 0269-85-4376)</p> <p>費用は約35,000円です。</p>			
今月の集会 日 時 12月10日(木) 18:30 場 所 厚生会館 4F 大教室		企画運営委員会 日 時 12月18日(金) 18:30 場 所 厚生会館 4F 大教室	



11月初めに登った四国の剣山・三嶺の紅葉は素晴らしかった。秋の日の澄み渡った空に、中腹から上部の錦織りなす様はまことに美しかった。四国へは今年の春に開通した明石海峡大橋を渡って行ったが、早朝出発すれば昼前には剣山の登り口に着く。便利になったものである。

京都をとりまく山々の紅葉はもうそろそろである。11月になって好天が続き、朝晩の冷え込みも厳しいので、今年の京の紅葉は美しいものとなると思う。

11月上旬にはあわや遭難かという騒ぎがあった。沢登りに行った2人組パーティーが予定日になっても戻ってこなかった。1人は交通局山岳部の若者であり、あと1人は国家公務員の方で沢登りの経験豊富な50歳程の方である。2人とも出勤する予定の日に姿を見せなかった。2人が登った山域と沢も大体分かっていたので、これは何か不測の事態が発生したとしか考えられなかった。ひとつはルートの間違えるなどの原因で登り切れず山中でビバークしているか、もうひとつは転落等で負傷して動けない状況にあるか、どちらかであろうと考えた。前者であれば1両日待てば連絡があるはずである。しかし、もし後者であれば一刻も早く救助隊を要請して救出に向かう必要がある。救助の要請は地元警察の山岳救助隊に電話する必要があるが、その時点でテレビ・新聞等に遭難の記事が載ることになる。相手方の職場の上司に相談すると、山についての知識が少ないが、人命にかかわることであるので、警察への通報はやむを得ないと思うが、その時期の判断は交通局山岳部に任せたいという返答であった。救助隊を組織して救出に行こうとした矢先に、ひょこっと遭難者が戻ってきてバツの悪い思いをすることはよくあることである。山岳部の主だったメンバーに相談して、午前中は連絡を待とうということになった。

双方の家族への連絡がつかないことも理由のひとつであった。救助隊を出すには費用負担のこともあるので、家族の同意はどうしても必要だ。じりじりと待つうちに、午前11時半にやっと連絡がはいった。やはりルートを間違い、登り切れずに下りる途中で日没となり、ビバークしたということであった。ほっとすると同時に、今回のことはきちんと反省し整理しておく必要があると思った。まず沢登りをするときのセオリーが守られていたのかどうか。沢を下るということは最も危険なことなので、ルートを間違ったことに気づいたとしても、尾根に出る方策がとれなかったのか。又、沢を下って、滝のところで手間どって日が暮れてしまったということだが、十分な長さのザイルを持っていれば簡単にクリアできたはずである。沢登りのベテランが、全くの初心者連れて登るにすれば、装備面でも行動面でも疑問が残る。又、留守部隊の対応として自分のとった対応が適切なものであったのかどうか。頭の痛いことではある。

50周年記念誌の原稿が切が12月末となった。来年3月の発行のためには年内の原稿の提出が必要である。まだ何を書くか考えていない部員諸氏も多いようだが、自分も含めて切厳守でいきたいものである。

(H.10.11.15. 記. S.I.)

【第2191回例会】

最高点シリーズ

弥勒岳（和束町）と国見山（笠置町）

三 橋 勉

15日は雨降りなので、予定を変更して一週間後の22日に実施したが、渋滞ラッシュに巻き込まれたため、近道にと犬打峠を通ったので、ここから鷲峰山への林道に入り、一等三角点のある少し東の送電線が、南北に走っている鉄塔付近に駐車する。早速、杉林の巡視路を登ると684mの鉄塔の下に9時40分到着。ここが、弥勒岳で和束町の最高点である。見通しの良いところで、西側に谷を隔てて金胎寺のある鷲峰山があり、その左側に一等三角点のある電波塔があった。広い頂上で東北の方に関電の通信電波塔の建物があり反射送電塔があった。

元きた林道を4キロ戻り、峠から白栖へ行き「北山」の道を聞くと、この辺りは松茸山の時期なので入山できないとのこと。「北山」へはシーズンオフに登ることとし、笠置町へ走る。

大河原から童仙房高原へ行く道に入り、登りきったところ（6番）で駐車する。登山準備をととのえて11時半に出発する。

地図の破線路を進むと左に茶畑があり、そこを登ると車道のヘアピンカーブの上とわかったので破線路に戻り、少し行くと尾根に入る道があったので、その小道に行くことにする。

低い笹原の道を行くと倒木があり、右手は下っているので、尾が続いている左手を行くと、右側の尾根が高く見えているので、トラバースぎみにそちらへ移った。やがて左側の下に車道が見え、この尾根に間違いないと確信する。踏み跡を確認しながら登って行くと伐採後に出た。

ここで一服しようと思っていると、ここが国見山の山頂510mであると先輩に言われて、付近を見渡すと、なるほどここより高いところはなさそうであった。ちょうど12時半。例によってカンパイ、そしてお弁当をいただく。南面が伐採されていて眺めが良く、向かい側にゴルフ場が見え、その後ろに室生の山々、特徴のある貝ヶ平山や奈良の山、そして西にはアンテナの林の生駒山方面が良く見えた。南面に張り出している国境尾根を下って行くと辺りが良く見えて、やはりこの上が一番高かった。

破線路までもどり、地図で確認し、この先に池があるので見に行くと、三差路に出て左側に池があった。右に曲がると別荘地があり、ログハウスがあった。そこから小さな峠を越え、車道に出て右に曲がりどんどん行くと駐車地点に到着。ちょうど一周したことになる。

帰りに城陽市役所に立ち寄り、最高点のある片原山付近の1万分の1の地図のコピーをいただいていた。

【参加者】 伊藤 潤治、 河村 清、 三橋 勉

【第2192回例会】

四 国 の 山

剣 山 と 三 嶺

山 元 誠 一

今年の4月に明石大橋が開通して半年あまり、その橋を利用して、身近になった四国の山を実感すべく、四国第二の高峰百名山の「剣山」と二百名山の一つ「三嶺」の登山を計画した。当初は、明石大橋を往復利用することを考えていたが、折角のことだから、祖谷の秘湯と名物の祖谷そばも食することとし、帰路は瀬戸大橋を利用する計画に変更した。

10月31日

6:30 竹田駅西に参加者7名が集合、夜半の雨も上がり、澄んだ朝の空気が心地よい。田村さんのワゴン車に乗り込み、名神南インターから、吹田Jct、中国自動車道の神戸Jctから山陽自動車道、三木Jctから神戸淡路自動車道へと進む。途中、西宮付近で渋滞に巻き込まれたものの、8時過ぎに明石大橋を通過。朝日にキラメク瀬戸内の海が眩しい。橋を渡った所にある休憩所からいま渡ってきた明石大橋を眺める。青い空と海その中間の巨大なつり橋。日本の誇る橋梁技術の粋に驚嘆する。地震のために橋脚の基礎が1m程度ずれたというがとても信じられない。

小憩後、車を南へと走らせる。淡路島を通過、更に、鳴門大橋を渡り、鳴門市には、9:40に着いた。鳴門から国道11号線を南下して、今度は徳島自動車道に乗り、終点美馬インターチェンジには10:40に到着。ここで、今宵の酒の肴をスーパーで購入し、吉野川を渡った所にある貞光町の道の駅「ゆうゆう館」で少し早い昼食とする。昼食後、国道438号を剣山登山口である見の越へと向かう。ところがである、土砂崩れのため、438号は「途中通行止め」で、迂回路である439号からしか、見の越へ行けないとのこと。4週間前の鈴鹿の「雨乞岳」とまたまた同じかたがっくりとしたが、意を決して、迂回路から見の越へと向かうこととする。道は、ほとんど1車線道路で、対向車が来れば大変なところであったが、対向車とすれ違うことは希れであった。やがて、道は山腹を巻くようになり、谷間の向こうに美しく紅葉した木々が目を楽しませてくれ、その向こうに剣山がその雄姿を見せてくれた。短いトンネルを抜けると見の越の駐車場であった。リフト乗り場の駐車場はほとんど満車の状態であったが、タイミングよく1台出ていったので、うまく駐車することができた。下から歩いて登れば、1時間半かかるところを、「金千円也」で、「リフト」を利用することとし、一気にリフト上の西島駅に。快晴の空の下、熊笹（シコクザサ）に覆われた頂上付近が白く光っている。空気が澄んでどこまでも見渡せ、道中も、熊笹帯の中を

爽やかな風が吹き抜け、汗もかくこともなく、40分で一等三角点のある剣山頂上に到着した。三角点の周囲には石が積まれ、さらにそれらの石を太い縄で囲ってあった。

晩秋とは思えない暖かい日差しが身体を包み込む。頂上一帯は、熊笹が覆い日差しを浴びて白く輝き、東方には、白骨林が見え、西に目をやれば、間近に、なだらかなジロウギユウの頂きが、そして、その右手奥には、明日登る三嶺のとがった頂上が光ってみえる。遙か彼方に見える高い山は、石鎚山か。暖かい太陽を浴びて多くの人が、四囲の山々の眺望を楽しんでおられた。

いつまでもいたい誘惑を裁ち切り、頂上を後に、大剣神社と下る。良縁を結び悪縁を切ると書かれてあった。神社から少し下がったところにある名水百選の「御神水（おしきみず）」を頂き、リフト横を通して見の越へ、途中の木々の紅葉が美しい。(15:30着)

当初は、三嶺の登山口にある民宿泊を予定していたが、民宿の方の都合が悪くなり、急遽紹介してもらった「祖谷青少年旅行社」に泊まることとなった。夕食は、あまごの塩焼き、刺身こんにゃく、鴨鍋もついた豪華なものであった。

11月1日

翌朝は、旅行村の人にお願ひし、7:00に朝食を摂り、7:20に出発、昨日と違って、どんよりとした空模様であったが、これから快復に向かうとのことであった。国道を剣山の方へ少し戻り、三嶺林道の標識の所を右折して、標高1,200m地点にある登山口へと向かう。登山口には8:00過ぎに到着したが、なんとそこには車が20台余り、我々も駐車場を確保し、身仕度を整えて早速登りだす。最初は、樹林帯の中の急登の連続であったが、道は整備され、登りやすい道であった。一旦、緩い登りになり、再び、急登となるころ、目前に三嶺の頂上が聳えていた。熊笹に覆われた道は、左側が、切れ込んでいるところもあり、注意しながら、最後の登りにとりかかる。稜線に出ると、右手には避難小屋、目の前には、小さな池があった。さすがに、吹く風は冷たく、晩秋を感じさせる。そこから、左手側へ5分程進むと二等三角点のある三嶺の頂上に到着した。剣山と同様、一帯が熊笹(シコクザサ)に覆われていた。眺望は利くものの、遮るものが無い頂上は風が強く、身体が冷え切る。先客の50名程の団体さんが、頂上を後にされてから、我々も写真を撮り、早々に少し下がった風のないところに移動する。行動食を口にしている間に、上空には青空が広がりだし少し日も差してきた。

下りは、元来た道に戻るだけである。そのうち、太陽が顔を覗かせ、少し暑いくらいになってきた。それにしても、多くの人が次から次へと登ってこられる。途中、50人ぐらいの人とすれ違ったであろうか。

登山口へは、11:00に到着、降りてからの楽しみは、その名物を食することと、温泉に浸かること。という訳で、「そば道場」で、祖谷そばを、祖谷温泉では、道の駅横の真新しい「秘境の湯」に入ってから帰路についた。ただ、三嶺林道の下りで、車の床を岩ですってしまい、「ミッションオイル」が漏れるというアクシデントに見舞われ、道すがらオイルを補給しながら、京都

まで帰らざるを得ないこととなり、帰宅は、翌日の午前となった。

ちなみに、三嶺林道では、毎年、同じ場所で車の床をする事故が多発しているとの事であった。
(念の為。)

【参加者】

森本誠一、井戸澄夫、田村正弘、竹田 勉、清水康裕、堀田 剛、山元誠一

【コースタイム】

10月31日

京都南インター (6:30) - 名神高速 - 山陽自動車道 - 神戸淡路自動車道 - 明石大橋
(8:10~30) - 鳴門大橋 - 鳴門 - 徳島自動車道 - 美馬 - 貞光 (11:00~40) - 見
の越 (13:10~20) - リフト終着西島駅 (13:35) - 剣山頂上△1,955m (14:10~40) -
見の越 (15:40) - 祖谷青少年旅行村 (16:30着 泊)

11月1日

祖谷青少年旅行村 (7:20) - 三嶺林道登山口 (8:00) - 林道出合 (8:25) -
三嶺頂上△1,893m (9:30~55) - 登山口 (11:00~20) -
祖谷そば道場 (昼食12:00~40) - 祖谷秘境の湯 (15:00~50) - 坂出 - 瀬戸大橋 -
国道2号 - 神戸 - 西宮 - 名神高速 - 京都南インター (2日の1:00着)

【個人山行】

赤城山，男体山，日光白根山，谷川岳

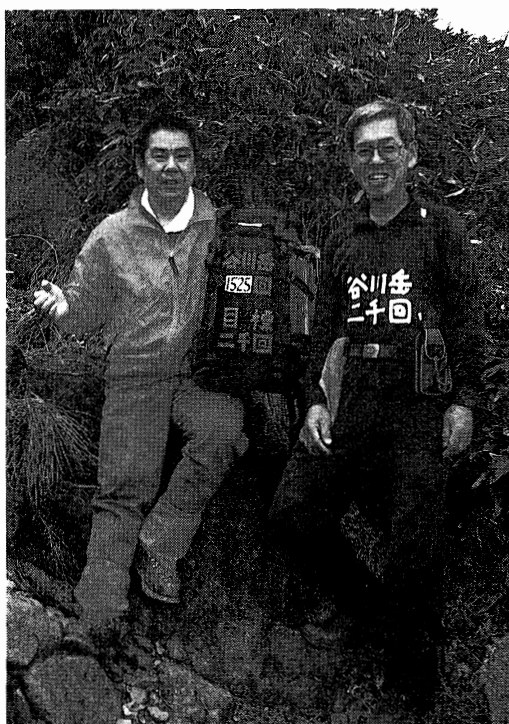
錦林支所 竹村 芳 廣

10月26日 今回の山行きも錦林の早川氏と石野氏の三人で行くことになった。名神の吹田～
栗東間がリフレッシュ工事の為、17:00自宅を早く出て石野氏と早川氏を迎えに行く。名神に中
央高速、長野自動車道を乗り継ぎ松本より国道143号を沼田まで行くが、赤城道路が途中で土砂
崩れの為、前橋方面の赤城道路へ迂回する。約1時間30分のロスタイム

27日 4:30大洞登山口に着く。車の中で仮眠をとり、6:00朝食をすませ身仕度を整えて6:52
出発。ジグザグ道を急登し急な鉄階段三カ所を越すと、駒ヶ岳1,685mに7:47着。此処からやや

下り又急登を進むと石碑や祠があり、もう少し行くと黒檜山1,827.6m 8:43着（赤城山 日本百名山40）。360°の大展望で雲の間から谷川岳に尾瀬の燧岳やこれから行く男体山が一望できる。下りは約1時間程で3パーティと離合し9:46黒檜山登山口に着く。車で明日行く中禅寺温泉まで移動する。

28日 男体山は10月25日に閉山祭があり二荒神社の登拝門が閉まっているが、神官に登拝料を一人500円払うと登拝門横の間から登るように言われた。7:45出発。最初から急登で、彼方此方に猿がいてこちらを見ている。3～4合目間は広い工事用道路になり4合目の石鳥居をくぐり登山道に入る。親子連れと単独登山者に追い抜かれる。7～8合目付近はガレ場になっていて落石に注意して登る。親子連れを追い抜く。背後には中禅寺湖



が見下ろせる。ようやく頂上の奥宮に着く。2,484m 11:00（日本百名山 36）。下山は志津小屋から三本松へ。6K、2時間30分かかる所約1時間歩いた辺りでパジェロと離合する。暫く行くとパジェロが帰って来たのでヒッチハイクをすることにした。三本松辺りまで乗せて貰う事にした。（三本松から二荒神社までは8キロで、東武バスの予定が）パジェロの人は日光まで帰るので二荒神社まで乗せて貰う事にした。道は国道120号で平日水曜日なのにさすが行楽地、紅葉目当てのマイカーで中禅寺湖辺りから停滞している。いろは坂辺りから続いているらしい。二荒神社手前でパジェロの人に礼を言って降ろして貰う。だいぶ時間の短縮ができた。自分の車で今日泊まる白根山麓の湯元温泉まで移動する。

29日 5:45起床。湯元温泉より前白根山へ向かう予定であったが、最短コースで白根山へ行くことにしたので菅沼へ向かう。菅沼登山口にはもう4、5台の車が止めてあって登山の身仕度をしている。6:48出発。車道と別れ、沢沿いの林道を少し歩きササ原に出る。ジグザグを繰り返して2時間程行くと阿弥陀池に出る。8:48浮き石の多いガレ状の急斜面を登る。四輪駆動で登る所もいくつかあり、ようやく日光白根山2,577.8m（日本百名山 37）9:48着く。急斜面の樹林帯を下る途中離合者を見てびっくり、男体山の4合目辺りで追い越された単独登山者とドッキング、湯元温泉より前白根山を経て来たとのこと。五色避難小屋には関東方面から来た女性達があった。五色沼を経て阿弥陀池へ出る。来た道を下山して菅沼に着く。12:50明日登る谷川岳麓の土合へ車で移動する。沼田より水上温泉から土合へ2時間30分かかった。

30日 5:00起床。身仕度を整えて車で登山口へ。登山口には車の駐車スペースが10台あって一台も止まっていなかった。6:00 巖剛新道の入り口には石積の道標がある。

早川氏はいつも持っている杖を持っていないので僕らも杖を置いて行くことにした。巖剛新道は右手にマチガ沢の景観を眺めながら急斜面に行く。早川氏はいつもよりハイペースで歩いている。所々四輪駆動で登る。灌木の中の急登を過ぎると稜線に出る。何とマップでは稜線まで2時間30分かかるところ1時間45分で来た。此処から先も岩稜の尾根をかなりの角度で登っている。ガスとササ原の間から道標が見えた。肩の小屋に着いた。頂上はもう少し。

双耳峰の一つトマの耳(谷川岳)に着いた。1,963.2m(日本百名山 30) 9:05でまず記念撮影をして、もう一つの頂上へはザックを置いて空荷で行く。オキの耳1,977m 9:15に着いた。また記念撮影をして、早々に肩の小屋へ行って行動食を食べることにした。小屋には誰もいなくて、行動食を食べている間にロープウェイで天神尾根から来た三パーティ五人が入ってきた。

10:30小屋を出ると外はまだガスがかかっている。急な岩稜尾根を下り巖剛新道へ行く途中変わった離合者に合う。数年前ニュース番組に出ていた人で、そのときは谷川岳に1,000回登って谷川岳付近の酸性雨を調査している人で、何と今回は胸に谷川岳二千回のゼッケンがあった。又ザックには1,525回、目標二千回のゼッケンがある。無理を言って記念撮影をして貰う。予定では西黒尾根を下山するのを又巖剛新道から下山する。登山口に13:00着く。駐車場は観光客で賑わっている。車で一ノ倉まで行くとここでも観光客がいて、なかにはタクシーで来ている人もいる。28日に泊まった湯元温泉まで帰って反省会。

31日 国道120号を沼田より関越自動車道、上信越自動車道、長野自動車道、中央自動車道、名神高速を乗り継いで京都へ走行、距離1,580kmである。

【参加者】 竹村芳廣, 他2名

例会報告

例会 No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	備考
2191	国見山と北山	10月22日		三橋 勉	伊藤 潤治 河村 清	(別稿詳報) 日程変更しました。
2192	四国 剣山と三嶺	10月31日) 11月1日		山元 誠一	森本 誠一 井戸 澄夫 田村 正弘 竹田 勉 清水 康裕 堀田 剛	(別稿詳報)

部員動静

目的地	月日	天候	参加者	記事
朝影山(敦賀)	10月10日		伊藤 潤治	去る10月10日(土)、地元の井上泰利岳兄にご案内いただき、高木志茂子さんと登頂してきました。かれんなミゾソバの花に美しくうずまった斜面の植樹林を抜けると、実におおらかな自然林で、広く平坦な山頂部の三角点は、落葉類を深々と重ね着していて、うやうやしく拝顔させてくれました。谷にはワサビの自生のお土産もありました。
赤城山, 男体山, 日光白根山, 谷 川岳	10月26日 ~31日		竹村 芳廣 他2名	(別稿詳報)
蓼科山	11月4日 ~6日		吉田 武 他3名	ホテルに泊まり、5日、表登山道より蓼科山(一等三角点)に登る。下山ルートは、天祥寺原をまわる。紅葉は今が一番良く、八ヶ岳や南アルプス、そして穂高連峰から後立山連峰が見渡せた。うっすらと雪をかぶっていた。帰路、安房峠からの穂高は最高であった。

雑 報

△△△ 11月の集会

日 時 11月10日(火) 18:30～
場 所 厚生会館 4F 大教室
出席者 (本局) 井戸, 大槻, 山元, 和田, 方山, 松浦 (高速) 大倉
(梅津) 吉田 (市役所) 竹田 (OB) 河村, 岡田, 岡本(勇)
以上12名
内 容 例会報告ほか

△△△ 10月の企画運営委員会

日 時 10月20日(火) 18:30～
場 所 厚生会館 4F 大教室
出席者 井戸, 吉田, 大倉, 三橋, 馬淵
内 容 例会予定, 岳連関係報告ほか

△△△ 他山岳会の会報(受贈分)

10月分 熊笹だより
11月分 熊笹だより, 比良山岳, 北山, 青嶺, 近畿山行, 一等三角点, 京都山岳,
趣味の登山, わっぱ, 山友, 木雞

△△△ 新入部員の紹介

氏 名 山下 幸宏
住 所 〒604-8873 京都市中京区壬生花井町23-6 四条住宅内
電話番号 075-801-1585 (呼出)
生年月日 昭和42年2月9日 血液型 A型
所 属 梅津

△△△ お知らせ

平成11年1月の集会兼新年会のご案内

- 日 時 平成11年1月11日(月) 18:30～
場 所 松尾橋西詰下の「網船小島」
会 費 3,000円(当日徴収)
担 当 鷺見敏一(外643-3391) 山元誠一(外822-9128, 内583)
井戸澄夫(外822-9181, 内810)
備 考 参加者は、平成10年12月22日までに、担当者にご連絡下さい。

▲▲▲ 京交山岳部創部50周年「記念誌」の原稿・写真募集について(お願い)

50周年「記念誌」の企画につきましては、平成10年4月号でもお知らせしており盛りだくさんの内容を考えておりますが、部員のみなさんからも次の内容で、原稿と写真を募集しておりますので、よろしくご協力をお願いいたします。

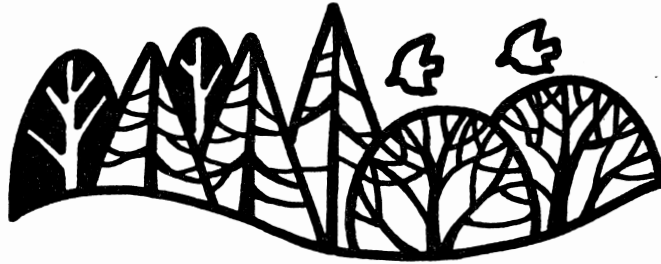
- 1 原稿の部 「京交と私」という内容で、京交山岳部と部員のみなさんとの関わりのほか、山に関する内容であれば、なんでも結構です。
字数は、部報1ページ(1,200字程度)で、写真等も併せて投稿して下さい。
- 2 写真の部 「思い出のスナップ」という内容で、所有されている写真を募集します。貴重な山のスナップ写真、山で出会った感動シーンをお待ちしています。写真にまつわる話を一言添えて投稿して下さい。

※ 締 切 平成10年12月末日

記念誌担当の山元までお願いします。

写真につきましては、後日返却いたします。

(記念誌担当 大槻, 山元)



家庭用品 } 総合卸商社
衛生用品 }

日華商事株式会社

本店 京都市南区上鳥羽大物町13番地
☎ 601-8121 電話 (075) 672-6101(代)
FAX (075) 661-7332

八坂運送有限会社

京都市伏見区醍醐新町裏町 24 番地の 4
TEL (075) 571-1108

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽

木村工業有限会社

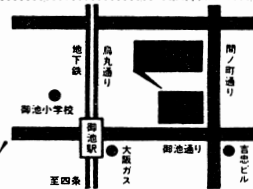
京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801-5331 (代)

西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店

今、アウトドア派大集合!!

- 登山用品はもちろん、
注目のスポーツ
カーブーをはじめ、
ひと味違う充実の
品揃えは必見のもの!!



LOGGE 株式会社 **ロッジ**

営業時間 AM10:00~PM9:00 (年中無休)
京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)
TEL. 075 (222) 0363 FAX. 075 (223) 5256

京都で唯一の山の専門店

Now Outdoor sports

ハイキング&キャンプ・クライミング
アウトドアウェア・US製用品
ポータブルカセット用品



〒604-0931 京都市中京区二条通河原町西入
TEL 075(258)-0548

営業時間 AM10:00 - PM8:00 毎週火曜定休
（株）スポーツ コニシ

出版業界も大不況で本が売れないらしい。老舗の中央公論社が読売新聞社に呑み込まれたニュースに驚いた人も多い。半面、いわゆる自費出版は商業出版物に比肩するほどの点数になって大手の出版社、新聞社も参入してきた。小社の加盟する自費出版ネットワークでは、昨年連続第2回目の「日本自費出版文化賞」の応募作品を募っている。ジャンル不問、大賞は賞金30万円と副賞がつく。12月10日締切りです。

制作 ㈱北斗プリント社
〇七五―七九―一六―二五
(文責 波多野)

草くさのすい随ずいから天井のそを覗く… ④



建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
国土地理院空中写真（カラー・白黒）取次
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
各種地図製作並びに印刷
地形図は、5万・2万5千とも全国を常備しております。

株式会社 小林地図専門店

〒600-8174 京都市下京区烏丸通上珠数屋町東入る（3軒目北側）
☎(075) 351 - 6598(代)

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター

厚生会指定

サンコークラフト

西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88
TEL (075) 771-3442

平成10年12月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部